

ゼロ・ウェイスト運動

上勝では 1998 年に町が二基の小型焼却炉が稼働を始めるまで、家庭ゴミは屋外に掘った穴で燃やされてきました。しかし、これらの焼却炉はダイオキシン排出量に関する国内規制のため、2000 年に停止されました。その後、上勝町はゴミを山口県へ送って処分するようにしましたが、継続するには費用が掛かりすぎました。次のステップは、埋め立てや焼却炉の使用を避けるため、リサイクリングの目標を設定することでした。全国平均の約 20%と比較して、上勝は現在その廃棄物の 80%をリサイクルしています。

負担を分かち合う

地域社会はまず、ゴミの分別の区分を 1997 年当初の九種類から増やしていくことから始めました。その数は 1998 年に 22 種類に、そして 2001 年には 35 種類へと跳ね上がりました。2003 年、上勝はゼロ・ウェイスト宣言を採択した日本で最初の地方自治体となりました。この宣言は、廃棄物の焼却と埋め立てを 2020 年までになくすことを目標としています。上勝では回収車による戸別のゴミの回収は行われたことはありません。住民は、有機廃棄物はすべて自宅で堆肥化し、また非有機廃棄物はゼロ・ウェイストセンター内のゴミステーションに持ち込んで 45 種類に分別することで、町の財政負担を軽減することに協力してきました。

斬新なアイデアの数々が、住民の協力意欲を高めています。その一例がちりつもポイントプログラムで、これは紙や洗剤の袋、歯ブラシ、使い捨てカイロなどを分別するとポイントが付与され、後に商品と交換できるというものです。このプログラムはゴミの分別を奨励すると同時に、リサイクル可能なものには価値があるという意識を高めることを目的としています。例えば、2019 年に紙をリサイクル可能な商品として売却すると、キロ当たり 13 円の収益をもたらしました。その他の取り組みには、買い物の際にレジ袋を断ったり、食べ物をテイクアウトするときや、醤油のような量り売りの商品を購入する際に容器を持参することで包装廃棄物を減らしたりした場合に付与されるポイントなどがあります。新生児のいる家庭には 2017 年から再利用可能な布おむつが配布されています。

取り組みに参加する

ゴミを 45 種類に分別したり、地元の食材を使って料理をしたりといった、地域の暮らしを訪問者に体験させてくれるさまざまなプログラムがあります。Inow は 2020 年七月に開始された二週間のプログラムです。参加者はこのプログラムのために確保されている個人宅に滞在し、そうすることでこのプログラムの期間中、地域社会の名誉会員として溶け込みます。町に住むことで、参加者は日常的にごみの分別を体験したり、有機農業を実践したり、伝統工芸品を作ったり、地元の旬の食材を使って料理を作ったりと、この町のライフスタイルに参加することを通して「ゼロ・ウェイスト」について学ぶことができます。さらに、上勝の企業は、ゼロ・ウェイストプログラムに関心があり、数日から数ヶ月の範囲で滞在することのできるインターンを受け入れています。

継続的な課題

上勝は、ゼロウェイスト宣言のもとに 2020 年の目標としていた、リサイクル対焼却という当初の焦点を超えて、新たな局面に入りました。廃棄物をその発生源で防ごうと、ゴミを出すことについての個人の考え方を变えるため、企業と協力しています。例えば、人工皮革の靴やオムツなど衛生用品のゴミは、その素材構成や衛生上の理由からリサイクルが難しくなっています。リサイクル率 100%は上勝の努力だけで達成することは難しく、メーカ

ーとの連携が不可欠です。